

令和元年度第2回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議録

- 1 会議の名称 令和元年度第2回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議
- 2 開催日時 令和元年10月9日(水) 午後3時～午後4時50分
- 3 開催場所 水戸市役所本庁舎 4階 政策会議室
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員
雨宮慎吾(代理), 伊藤明美, 入江貴裕, 大久保博之, 大津順一郎, 大和田基,
加藤高藏(代理), 齊藤恵, 佐川泰弘, 高倉富士男, 田山知賀子, 任田正史, 沼田安広,
野口順市, 早川裕之, 原毅, 舟橋浩文, 保立武憲, 堀井武重, 村中均, 森正慶
 - (2) 執行機関
武田秀, 長谷川昌人, 上原純大, 飛田尚亨, 酒井隆行, 木村昌嗣, 吉川彩美
- 5 議題及び公開・非公開の別
人口ビジョン・総合戦略(第1次)の検証及び(第2次)骨子(案)について(公開)
- 6 非公開の理由 適用なし
- 7 傍聴人の数(公開した場合に限る。) 0人
- 8 会議資料の名称
資料① 人口ビジョン(第1次)の検証及び(第2次)骨子(案)について
資料② 水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略(第1次)の検証及び
(第2次)骨子(案)について
資料③ 数値目標及び重要業績評価指標(KPI)の進捗状況について
参考資料 策定スケジュール
- 9 発言の内容
【執行機関】 定刻になりましたので, ただいまから, 令和元年度第2回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議を開催させていただきます。
本日は, 御多用の折にもかかわらず, お集まりいただきまして誠にありがとうございます。
それでは, 座長に議事の進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。
【座長】 皆さん, 本日はよろしくお願いいたします。議事に先立ちまして, 本日, ____委員,
____委員, ____委員, ____委員, ____委員, ____委員が所用のため, 欠席との連絡

を受けておりますので、御報告申し上げます。

また、本日の会議録署名人につきましては、____委員、____委員をお願いいたします。

それでは、議事に入ります。まず、人口ビジョン及び総合戦略（第2次）骨子（案）について、事務局から説明願います。

（会議資料①～③に基づき説明）

○人口ビジョンについて

【座長】補足ですが、2017年までは、合計特殊出生率が想定よりも上がっています。社会動態は転入が多い年もありますが、2018年は転出超過となっており、転出先は県南や東京圏が多いです。もう一つ、特に県庁周辺部で人口が増加しておりますが、中心市街地や北西部等で人口減少が見られます。これらを踏まえて、人口ビジョンの目標人口は、引き続き2060年の時点で245,000人という御提示です。それではまず、資料①の人口ビジョンについて、御質問、御意見があればいただきたいと思えます。

【__委員】2ページ図2「水戸市の社会動態2018年（県外等）」について、国外とはどこの国ですか。また、生産年齢のかたなのか、将来的に生産年齢になる定住の可能性が高いかたなのかについて聞きたいです。

【執行機関】現在、本市には約3,600人の外国人がおります。2018年は転入1,106人、転出402人で、704人の転入超過となっております。中国、韓国のかたが多い状況で、年齢別の詳細は現在分析を行っているところですので、今回の会議でお示ししていきたいと考えております。

【__委員】分かりました。定住して、地域に貢献していただける人たちであればいいなと思った次第です。

【座長】転入の属性について、もう少し詳しく説明できますか。

【執行機関】転入の詳細な分析についてはデータを集計中でございますので、次回お示しさせていただきます。

【__委員】常住人口は昼間の賑わい、昼間人口に依存していると思えます。むしろこれが重要で、昼間人口は都市圏人口にほぼ等しいものだと思います。ひたちなか市や周辺市町村も含めると、人口はどのように推移しており、2060年にはどうなっていくのでしょうか。

【執行機関】現在、笠間市、ひたちなか市など、周辺9市町村で構成している「県央地域首長懇話会」という組織を設けておまして、県央地域全体の人口は、2015年が約715,000人でピークに近く、2045年には572,000人まで減少する見込みです。水戸市は微増、微減を繰り返しており、他市町村も同様の傾向です。詳細については次回、各市町村別の人口をお示しさせていただきます、社会動態についても併せて御確認いただきたいと考えております。

【__委員】つくば市や県庁所在地の宇都宮市、前橋市との比較があると、水戸市の位置付けが分かると思えますので、そのような資料を添付していただければ幸いです。

○総合戦略について

【座長】 それでは次に、総合戦略について御意見を伺いたいと思います。具体的な内容は、次回、担当部署に出席いただく予定ですので、大枠の目標として考えていただきたいです。御質問、御意見があればお願いします。

【___委員】 第2次の総合戦略では、事業所数を増加させるイメージがありますが、I o Tのような新しい技術が出てきている中で、実は中小企業の事業所数が減少していきと言われていきます。魅力ある会社を一生懸命作っていても、就職説明会のブースに人が来ない、肝心の新卒のかたが就業を希望しないという現象もあり、これにどのように対処するのか、考え方がうまく理解できないところがあります。

また、数値目標に観光交流人口の増加があります。ホーリーホックが強くなり、入場者数が増えても、水戸に来る人が増えている話で、住むことにつなげるにはどのようにしたらよいか。

コンパクトシティを目指すことは必要だと理解しているものの、文章を読んでも、コンパクトシティのイメージがなかなか理解できないので、どのようなイメージをお持ちなのか、お話いただければ有難いと思います。

【座長】 何がどうなればうまく回り、人口が増えていく、というストーリーがあるとよいと思います。今の質問は、ストーリーを立てるに当たって、事業が先か、目標が先か、といったこともあるかと思います。これまでのやり方を繰り返すのではなく、今後の道筋をどのように立てるかということかと思います。

【執行機関】 第2次の考え方といたしまして、資料②3ページ「基本的な考え方」を御覧願います。第1次の検証を行い、事業はおおむね進捗が図られており、成果が出ているものもあれば課題等もあります。これらを踏まえて、第2次は、第1次をベースに新たな施策を位置付けるという考え方で、今後、素案を作成したいと考えております。

【座長】 第1次は継続しつつ、新しい要素を入れていく考えということですが、事務局からというより、こちらからどのように考えたらよいか意見を出すと参考にしていただけたらと思います。

【___委員】 商工業者は、約20年で20%減少すると思います。人口が減少している中で、商工会議所の課題は、事業所の人手不足、事業継承者の減少、生産性の向上があります。キャッシュレスも含めて、これらにきちんと取り組んでいる企業でないと生き残っていきません。

最近、老舗のラーメン屋や小料理屋が続々と廃業しており、寂しいと思いますが、生産性が低いところや後継者のいないところは店を閉めざるを得ません。ですから、福祉やサービス業など、生産性の高い事業を増やすことが一つの課題だと思っています。

中心市街地活性化協議会の会長も担っておりまして、コンパクトシティの概念について、下水道や道路などインフラを延ばしてまちを大きくしていくことはもう難しく、なるべく機能を集約して、そこに住んでいただければ、福祉の手も届きやすく、歩いて楽しめるまちづくりにもつながります。一度延ばしたものを戻していく、中心市街地に集約する考え方が、一番効率的でにぎわいのあるまちになるのではないかと商工会議所は考えております。

【___委員】 基本的な考え方にSDGsが入っておりますが、ただ漠然とSDGsの視点を生か

すのではなく、具体的に17の目標のどれに取り組むのか、お考えはあるのでしょうか。

【執行機関】SDGsの17の目標のうち、どの目標を重点的に取り組んでいくか、まだ精査できておりませんが、今後、素案を作成する中で、各目標に沿って具体的施策を整理していきなど、SDGsの視点を入れていきたいと考えております。

【___委員】茨城県が性的マイノリティのパートナーシップを宣誓しました。地方公共団体は、水戸市も含めて、採用試験時に性別を記載しない方向になっていきます。資料②6ページの国の視点にある「誰もが活躍できる地域社会をつくる（女性、高齢者、障害者、外国人等）」の「等」に性的マイノリティも含まれると思います。基本目標Ⅳは、「個性輝く」ということがあまり見えていないので、今後、国の流れに沿っていくような視点が必要かと思います。

【執行機関】「誰もが活躍できる」ということで、高齢者や障害者、外国人を含めた取組の位置付けを今後検討していきたいと思っております。

【___委員】水戸市には医者が約400人おります。開業医は10数年前から減ってきましたが、最近減り止まり、少しずつ増えています。

水戸済生会総合病院や水戸協同病院には、筑波大学の卒業生が多く勤務しており、半数はつくば市から車で通勤しています。別の話になりますが、水戸のある病院に勤務する水戸在住の医師が、つくばに移り住み、つくばから水戸に通うか迷っています。水戸が住みやすいか住みにくいかわけではなく、つくばが好き、嫌いという発想をしているのだなと非常に感じました。水戸は嫌いではないが水戸には住まない、20代、30代の医師にはこのような姿があります。

人口ビジョンについて、出生率が1.46から1.66に増えています。水戸は5、6年前までは一学年2,500人程度いましたが、今は2,300人程度に減っていて、出生率の数字とずれがあります。出生率が増えたから人口が増えるということは考えないほうがいいと思います。

【座長】ここ数年の出生数なので、学校に通うにはもう少し時間がかかるかもしれませんが、いずれにしても、進学、就職、独立してどこに行くのかということですね。

先ほど、つくば市から水戸市に通勤ということで、以前、医者の子どもの教育環境の話で、水戸はなかなか選ばれないと伺ったことがありますが、例えば、中高一貫校ができれば状況は少し変わってくると思います。

【___委員】有識者会議の目的は、人口や交流人口を増やすための施策を考えることです。行政は総花的で公平・公正を求めるので、このような概念はなじまないと思いますが、例えばひたちなか市やつくば市との学力の比較など、競争が必要だと思います。

【座長】以前も、水戸スタイルの教育とは何かという議論があったと思いますが、具体的な内容が伴わないと、あるいは、他と比較して水戸には何が足りないのかという観点がないと、選ばれるまちにならないということですね。

【___委員】第2次の基本的な枠組みは第1次を継続するという考えということですが、資料③「2 重要業績評価指標（KPI）の進捗状況」について、基本目標ⅢはCやDが半分程度あり、市民のニーズになかなか追いついていないのかなと思いますが、今回の見直しでしっかり取り組んでいくのかということをお聞きしたいです。

また、茨城県は県民の愛着度が低いという話があります。水戸に対する愛着心を育てる教

育をしっかり行わないと、長期的に見て定住につながらないと思います。市民の意識への関わりが必要だと思うのですが、そのあたりのお考えはいかがでしょうか。

【執行機関】 今後、素案を作成していく中で、具体的事業 263 事業の成果等を精査し、進捗が図られていない事業の見直しを行いながら、第 2 次の総合戦略に位置付けたいと考えております。

愛着心につきましては、市民の意向もございますので、今回、市民アンケートを行い、集計・分析しているところです。特に今回は、若い世代の定住や地元就職の意向も調査しておりますので、結果を踏まえながら、施策を検討していきたいと考えております。

【座長】 263 事業と膨大ですが、第 2 次は、基本的にほとんどが第 1 次に位置付けられている事業で、関連する事業をまとめてパッケージにした印象が強いと感じます。先ほどストーリーと申し上げましたが、事業が最終的に人口の増加につながるが見えないと思います。私自身は、引き続き 263 事業を第 2 次に盛り込む必要はなく、有効なものを伸ばしていくことがよいと思います。この見極めをお願いし、議論できればと思っております。

【___委員】 転入・転出の理由を把握できるようなアンケートは行っているのでしょうか。他市町村との相対的な競争力が反映されると思いますので、例えば教育、医療、福祉、交通の何が足りなくて転出するのか、また、何がよく、何を期待して転入してくるのか、長年積み重ねれば参考になると思います。

【執行機関】 アンケートは行っております。9 月に行ったものですので全体的な傾向とは言えませんが、県内の転出の理由については約 3 割が婚姻関係、さらに約 3 割が仕事関係となっており、県外の転出については約 8 割が仕事関係となっております。次回、これらも踏まえて分析したものをお示しできればと考えております。

【___委員】 仕事関係が多いですが、それ以外にも理由があるかもしれません。先ほどのつくば市の話のように、勤務先が水戸でもつくば市に住むケースや、水戸から通えるのに勤務先のある市外に転出するケースがあるかもしれませんし、人口ビジョンに参考になるようなアンケート項目を作ってもよいかと思っております。

【___委員】 どの市町村も、国の方針を踏まえて同じような計画ができるのかなというところで、水戸市ならではの何かを一つ付け加えられたらいいなと思います。第 1 次の水戸のまち創生リーディングプログラムは水戸市ならではの施策だと思っておりますが、このプログラムは、第 2 次ではどのような扱いになるのかお聞きします。

【執行機関】 水戸のまち創生リーディングプログラムにつきましては、特に 20 歳から 39 歳の若い世代の定住を促す取組を位置付けております。若い世代の就職、結婚、子育てを支援し、将来的に人口を増やしていくという考え方でこのプログラムを設定しており、雇用の創出、就業・起業の支援、さまざまな文化活動の支援など、若い世代を対象とした支援を位置付けております。

第 2 次の総合戦略での位置付けは、今後、素案作成において検討してまいります。資料②3 ページ「基本的な考え方」のとおり、若い人も活躍できるような環境づくりに取り組んでいくこととしておりますので、第 1 次と同様、若い世代に対する取組に重点化を図っていきたくと考えております。

【___委員】先ほど話があったように、事業と目標にストーリーを持たせないと人口は増えていかなければと思います。

例えば、県内高校生の就職状況について、昨年度は約 1,100 人が就職し、県内企業の就職率は 8 割となっていますが、水戸管内では 53 パーセントにとどまっています。そのため、中学生に対して茨城県のよさを PR し、意識付けしないと、いずれ県外に逃げてしまいます。そのような取組のストーリーをつくり、各分野の目標を立てて施策を進めるとよいと思います。

ハローワークの有効求人倍率について、県全域では約 1.6 倍のところ、水戸管内は約 1.9 倍となっており、水戸市には求人が多くあります。ただ、先ほど___委員がおっしゃったように、中小零細企業は、後継者、キャッシュレス、ワーク・ライフ・バランスなどに対応できないと廃業してしまいます。ワーク・ライフ・バランスに積極的に取り組む企業を増やすために、単純に、社会保険労務士がセミナーで労務管理を指導するだけでは改善しないと思います。どのように支援すれば中小零細企業が活性化するのか、ストーリーを持って地元の受入体制を作らないと、人口は流出してしまうと思います。

県内の市町村はどこも同じように悩み、何とかしたいと思っていると思いますので、県内、市内にある大学等と連携する流れをつくる必要があると思います。

鹿嶋市の医師と話をしたことがありまして、茨城県は他県と比べて教育のレベルが低いという話や、つくば市に優秀な人材が集まっているという話があります。親が、子どもをつくば市にある有名な高校で学ばせ、いい大学に通ってほしいという思いがあると、なかなか水戸には来ないのではないかなと思います。

また、最初に出た外国人の話ですが、今一番多いのはベトナム人です。ベトナムやフィリピン、インドネシアのかたがどんどん増えています。ただ、技能実習生や E P A（経済連携協定）で来ているかたたちがおりますが、定住してもらえるのか分からないので、そのあたりの調査も必要なのかなと思います。

【___委員】第 2 次の総合戦略は総花的な印象があります。人口を増やすためには、水戸市の強み、弱みを分析する必要があると思います。水戸市はどこかの市町村と似ていて、その市町村がどのような施策を行い、効果はどうか、今はグローバル時代なので、日本に限らず世界の都市と比した分析が必要だと思います。県内だけではなく、日本や世界で見たときに、ターゲットとしているところの施策を参考にする必要はないかと思います。

【座長】どこを比較対象とするか意識してつくっていただき、可能な限りデータを見せていただき、どこを伸ばしていくのか、総花的でよいのかという問題提起かと思いますがよろしくをお願いします。

【___委員】水戸と言えば文化と教育です。偕楽園や千波湖周辺は風光明媚なところで、芸術館は東京からもお客様がいらっしゃいますし、水戸らしい教育というものもあります。もっと PR して、水戸市民が今一度誇りを持てるとよいのではないかと考えています。

また、ワーク・ライフ・バランスの話が出ました。龍ヶ崎市は市長が育児休暇を取得したこともあり、男性の育児休暇取得率がとても高いですが、水戸市は低いです。常陸太田市は、ワーク・ライフ・バランスを子育て支援として捉え、住宅費を助成するなど目玉があります。ノルウェーでは、男女が協力して育児をする体制ができています。若者に水戸に住み続けて

もらえるよう、ワーク・ライフ・バランスのまち水戸に取り組んでほしいと思います。

【___委員】水戸のイメージは文化と教育ということで、教育面に力を入れることにより、教育環境の改善につながると思います。学力診断テストの結果がそれほどよくなくても、水戸市の子どもたちは体力があるというデータありますので、体力向上のためにアダストリア みとアリーナ等を活用することが、教育的な面から必要であると感じました。

また、若い世代は、出産補助金や住居手当を支給している市町村に住もうと考えると思います。できる範囲で、水戸市独自の補助があると、もっと若い世代が来て定住につながるのではないかと思います。

【座長】水戸市は、人口が減り続けているところから少し増えてきた印象がありますが、その要因として、どの施策が効いているのか、行政として何か感触はお持ちでしょうか。また、市内の宅地化されたところに県北から移り住んで定住しているのか、あるいはまちなかに借家で住んだかたがまた出ていっているのかなど、どのような移動があるか分かりますか。

コンパクトシティの話もありましたが、宅地化されたところの人口が増加していても、20年後は市の南西部のようになることもあり得ます。これからも宅地化が進んでいくのかは分からないので、宅地化以外に惹きつけられる要因がないと、今後も人口は維持できないと思います。そうすると、先ほどの文化や教育につながってきます。第1次では中心市街地の居住人口を増やすことに力を入れてきましたが、それができていないとすると、人口増加のほかの要因を分析し、どこに重点を置くのか、再び中心市街地に戻るのかについても議論のポイントになると思います。

【___委員】水戸駅から大工町の間に保育園が一つしかありません。マンションが建っても通うところがないことが問題です。コストが合わないため保育園ができず、中心市街地の大きな課題となっています。また、歩いてスーパーに行くには距離があるため、逆に中心市街地は住みにくくなっているのです。施策を提言させていただいていることがあります。

さきほど商店街や企業が減ると言いましたが、どんなに廃れた商店街でも、こだわりのものやそこでしか手に入らないものを売っている店は流行っているのです。商工会議所の役割として、質を高めていくことに取り組んでいます。量的に減ってしまうことは仕方ないと考えています。

【___委員】数値目標が一般的な目標になっているので、水戸らしさ、特徴ある指標が必要かと思えます。特に基本目標Ⅳは、「個性輝くまち」に関連した数値目標を設定した方がよいと思えました。

【執行機関】御意見を踏まえて検討し、次回の会議でお示しできればと思います。

【___委員】水戸に住んでいる優位性を若者が持てるような教育に取り組まないと、水戸から離れてしまう可能性があります。水戸市は毎年20~30人が医学部に進学しています。水戸に戻ってくれば水戸は医療的に安心ですが、どこかに行ったきり戻ってこない。水戸はよいところだということ子どもに教育することで、よそに行かなくなり、行ったとしてまた戻ってきます。そういったところをオール水戸で取り組んでいかなければならないと思います。

【座長】学校の現場も大変そうで、あれこれやろうとしても、それが逆効果になっているようなところもあります。第1次では抽象的だった話を、教育面で、もう少し具体的なことを委

員から言っていただければ入ってくることもあると思います。

【___委員】水戸には偕楽園などよいところがたくさんありまして、弘道館や大手門も新しくなりましたので、もっとイメージアップするような宣伝をしていただきたいなと思います。

また、今は結婚年齢が高く、自然と子どもが少なくなると思います。30代40代の男性も女性も、一人で暮らすことが楽で、だんだん時代が変わっているような気がします。人口はすぐには増えませんが、結婚のよさについて教育していくのがよいと思います。

【座長】高学歴化していますので、せっかく大変な思いをして就職をしたのにすぐに結婚するということが難しいのだと思います。大学で、ライフデザインや人生設計を考えることまだまだやれていないように思いますので、そのような教育も必要なのかもしれない。

【___委員】いかに住みやすく、暮らしやすくするかが非常に重要だということで、やはり他都市と比較することにより、具体的などころまで施策に入りやすいと思います。

また、水戸の教育についてですが、最近、水戸の人が地元を知らないことに直面しました。偕楽園がどのような構成でできているかといった話をしたときに、全然水戸を分かっていないというところがありますので、今後、教育に力を入れたほうがよいと思いました。

【___委員】国の方針が出ているということは、全国でこの議論をしているのではないかと思います。どこで差が出るのかと言いますと、地域性であり歴史であり気持ちであり、そういう議論をして、少しでも勝ったところがオール100点を取れると思います。ただ、オール100点は最初からは無理だと思いますので、水戸はここで100点を取りたい、ここでは50点くらいとればよい、といったメリハリを持って、是非とも集中と選択をして議論をしていただく道は近いと感じました。

【___委員】この制度ができたときに最初に担当大臣になった石破さんの政務官が、「全部の都市は救えない。努力したところだけが生き残る。」と話していました。努力し、特色を出しつつ競争する意識がないと、全国でよくなるうと言っても難しいかなと思います。

【___委員】初めての参加なのでお許しいただきたいと思います。2060年の目標人口245,000人が、果たして適正かどうかという議論はされているのでしょうか。

【座長】適正かというより、これぐらい高い目標を掲げていこうというものです。

【___委員】人口が少なくても、例えば進学率が全国1位など、何か日本一だったらよいと考えております。人口が先歩きしていて議論を難しくしているのかなと思います。

【座長】人口ビジョンは、現状の人口や合計特殊出生率を踏まえて、全国同じ考え方で機械的に定めていると思います。何もしなければ20万人強ということですが、さまざまな取組により人口が増加していると思うので、目標に達しなくてもこれぞ水戸ということが御意見かと思いますが、それは私も重要だと思います。

【___委員】行政ですから、最終的には税収を増やすことが目標になると思います。税収を増やすことは産業振興ということだと思いますけれども、例えば税収（固定資産税1.2倍など）をKPIとする場合、人口が減少しても、一人当たりの所得が増えれば目標達成につながるので、そのような割切りもありなのかなと思います。

【___委員】全国で地方創生に真剣に取り組んでいるのは、日本が将来、今の3分の1の人口で国土をしっかり守っていけるのか、というところが原点にあると思っています。価値観が多

様化する中で、さまざまなことに取り組みながら、豊かで明るい生活ができる国を目指すという発想なのだろうと思い、この会議には参加してきました。

例えば、水戸市は町内会の組織率が58パーセントを切っています。私は、地域における見守りなど考えていかないと地域はきちんとならないという思いがあり、町内会組織率を見ています。今の時代に合わせた形で、いろいろなことに気付いていただき、いろいろな価値観を持ってもらうと、人口問題に対してしっかり取り組んでいけると思います。

他市町村との競争になるのは仕方ないと思います。一方で、定住自立圏構想では、それぞれの特徴を生かしながら、社会資本投資を抑えていく考えがあると思います。パブリックコメントでこのようなことに気付いてもらわないと、市民とともにこの問題に取り組んでいくことは難しいと思っています。

【座長】第1次の総合戦略でも、仕事が先なのか何が先なのかという話はあったと思いますが、第1次から何が変わり、よくなってきているのか教えていただきたいです。市民の皆さんの意識が変わってきたのか、県北から一時的に水戸に転入した後に市外に転出してしまっているのか、次回、データを見ながら意見を交わしたいと思います。

また、総花的ではなく焦点を定めつつ、施策と目標にストーリー性を持たせるとよいと思いますので、次回、もう少し立ち入ったデータ等を見せていただきながら、個別の施策の計画や、それがどうつながっていくのかお話いただこうと考えています。

それでは今後のスケジュール等の説明について、事務局からお願いいたします。

(事務局よりスケジュール等について説明)

【座長】本日の議事は以上といたします。円滑な議事進行に御協力いただきましてありがとうございました。

【執行機関】長時間にわたりまして御審議いただきまして誠にありがとうございます。以上をもちまして有識者会議を終了とさせていただきます。ありがとうございました。